



# 日本大学 三島同窓会夕報

第 6 号

昭和 51 年 1 月 22 日  
静岡県三島市文教町 2  
日本大学三島同窓会発行



総会（会長あいさつ）

## 同窓会役員名簿発行される

同窓会役員名簿は、すでに編集も終り、新年早々に発行されることになった。最初の発行であるため、不十分な点もあるが、発行されしたい、役員のお手元に送付されることになつていて。

編集委員の皆様に感謝するとともに、文科・家政科出身の方々の一層の協力をお願いしたい。

一、前年度事業報告について  
一、前年度決算報告について  
一、本年度事業計画について  
一、その他  
なお、事業報告・計画は瀬川一  
男事務局長、予算・決算は石川貞  
夫会計担当常任幹事、監査報告は  
持田光雄会計監査より、それぞれ  
報告が行なわれた。（詳細は会報

## 桜文会・桜栄会名簿 発行まじか

同窓会名簿発行事業の一環として編集が進められている、短大文科分冊（桜文会名簿）並びに短大家政科分冊（桜栄会名簿）が、今春には発行される見通しである。すでに編集もほとんど終り、印刷に廻す段階にきている。しかし、少数であるが編集委員が八方手をつくしたのにもかかわらず、住所確認ができず、名簿発行事業がいかに困難なものであるかを感じさせられる。

第五号参照）また、その他では三十周年記念行事について、奥田吉郎副会長より、どのようになるか未決定であるが、会員の皆様の意見を聞いてにつめたい旨説明があり、関哲男常任幹事の閉会の辞で無事終了した。

## 昭和五十年度総会開く

# 同窓会懇親会

なごやかに終わる

同窓会懇親会は総会終了後、同じ会場に安藤先生をはじめ、十余名の先生方をお迎えし、午後五時

より開催された。井川一見幹事の司会で会がすすめられ、種房繁会長の挨拶について、大学を代表し

て安藤公平先生の御挨拶、鈴木昇六先生の音頭で乾杯し、なごやかな懇親会にはいった。今年は古顔が多く見られたが、なかでも四期生が久し振りにハッスルした感じ。

また、親子会員の磯貝重雄・寿範父子なども目立ち、なごやかな光景であると同時に、古手にとつてはいくら気分は若くてもいさかシヨックなこともある。会は六時過ぎまで続けられ、楽しいひ

ときであった。「また来年の三十周年であいましょう」と、それの二次会に散っていった。

常任幹事会で準備

総会・懇親会準備のため、十月十六日十八時より母校三島学園の本館で常任幹事会が開催された。

出席者は奥田吉郎・瀬川一男・西村満男・遠藤逸雄・石川貞夫・内藤正昭・柴田正・土屋貞夫・小早川隆義・市川紀子・宮沢愛子・山田綠・土屋忠得・田中由雄・鈴木

正八両幹事、受付を柴田正・宮沢愛子・牧野和代の三幹事、案内板等の表示は内藤正昭・田中由雄両幹事にそれぞれお願いし、準備に万全を期すことになった。

この他に同窓会報の第六号発行の時期を総会終了後とする。三十周年記念行事をどうするか等について意見の交換をした。

## 母校 大学祭

華やかに開幕



同窓会懇親会の風景→



同窓会懇親会で安藤次長のあいさつ ←



同窓会懇親会での乾杯風景 ↑

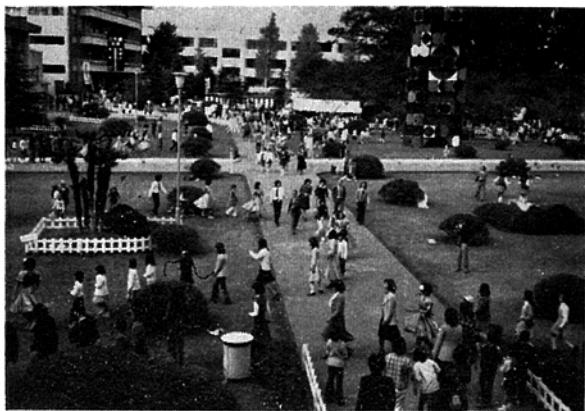
母校三島学園の第二十五回大学祭は晴天に恵まれ、十一月一日から三日まで盛大に挙行された。本年の開会式は野外ステージに全学生を集めて行なわれた。後藤謙一実行委員長の開会宣言、安藤公平文理学部次長の挨拶があつて式典を終わり、引続いて日本大学吹奏楽研究会の演奏・パレードで初日を飾った。

主な行事をひろってみると、八号館講堂が超満員になつた引田天功の魔術、三好行雄東大教授の記念講演「三島由紀夫の世界」、林家正蔵師の名人芸「文七元結」、古式典雅な四条流十二世山下茂氏によるまないた開き、学生のサークルによる学術・文化展示、音楽・演劇発表会、演武会、家政科

のパーラー日大、家政バザーなど多彩なもよおしが続けられ、広いはずの三島学園校庭も、人でうずまる盛況であった。

三日目の夕やみせまる頃まで校庭いっぱいにひろがつた「友情の環」ともいえるフォーカダンスの環。これを最後に若人の英知と情熱を結集した大学祭も、学生達に幾多の教訓と思い出を残して無事終了した。

ファイヤーストームしか頭にない古い先輩にとつては、フォーカダンスなどいさか面くらう行事だ。大学祭も一年一年をみると、十年一日の如く感じられるが、伝統を継承しながらも、時代の流れとともに大きく変革されていることを、強く感じさせられる。



## 楽しくダンス



引田天功の魔術



## まないた開き

# 第二十五回 三島大學祭

(昭和50年11月1日～3日)



## 旅行研究会



経済研究会



美術部

学術・文化展  
発表会  
静岡県日本大学校友会總会  
バザー・パーラーにちだい・そ  
の他  
十一月三日(月)  
一般公開  
日本のこころ(姫開き)  
四条流十二世家元 山下 茂  
学術・文化展  
発表会  
ラウンド・ダンス  
日本大学三島同窓会總会  
バザー・パーラーにちだい・そ  
の他

三島由紀夫の世界  
東大教授 三好 行雄  
古典落語と人生

十一月一日(土)  
開会式  
野外音樂會  
魔術の世界  
日本大學吹奏樂研究會  
引田天功とその一行  
一般公開  
學術・文化展  
初日祭會  
發表會  
一般公開  
血・その他  
バザー・バーラーにちだい・獻  
十一月二日(日)  
一般公開  
學術講演會

第25回 大学祭  
プログラム

今から二十八年前、まだ終戦後間もない昭和二十三年に、大学を出たばかりのスマートな一人の独身教師が三島予科に着任した。しかし、それは恰好ばかりで、中身はからっぽの、お情けでやっと勤めさせてもらったような人物であった。彼は今でも三島校舎に、ずうずうしくも永年勤続者ぶった顔をして勤務している。

今になって振り返ってみると、あの頃の私は、全くお恥しき次第の一語につきる存在であった。そして、若い若いといわれながら、また、自分でもそう思ひながら、なんとなく過ごしているうちに「人生五十年」も通過してしまった。

就任第一年目は、自分自身にとっては新しいスタートでもあるので、その頃のことは何かと深く脳裡に刻みこまれていることが多い。最初に担当したのは予科理科一年生の歴史で、このクラスは翌二十四年の新制大学への移行によって工学部一年となり、再び歴史を担当したので、二年間講義したこと、私の大学教師として最初つた。



## 光陰箭の如し

蔵並省自

(文理学部・歴史学担当)



昭和26年学部对抗優勝の水泳部、中央・秋葉教養部長、右・内山事務長、左・筆者

に接した学生諸君なので、何かと忘れられないものがある。文理学部化学科の石川俊美助教授は、このクラスの学生だったので、今まで理学部で会うたびに、当時のことを話題にすることがある。

また、予科文科生で、現在のよう立派なグランドが整備されていなかつた校庭の、正門（今の北中正門）から時計台のある高校校

これは参考になると思ったものは何でも意欲的に吸収して、自分の不足を補ない、役立たせ、何とか先輩教授の後にくつづいて、落伍しないよう努力することで精一杯

結婚、私自身も講師・助教授・教授となり、文学博士の学位も受け

ライフ・ワークとしての研究もレ

代のすべてでもあった。独身から結婚へ、二子を生育し一人は既に結婚、私自身も講師・助教授・教

のあゆみと、そこから生まれ出て、婚姻へ、二子を生育し一人は既に結婚、私自身も講師・助教授・教

五年以上を経過した日本大学全体のあゆみと、そこから生まれ出て、婚姻へ、二子を生育し一人は既に結婚、私自身も講師・助教授・教

握し、これを根底にふまえて将来に対する検討を加えることも必要と、思考をめぐらす昨今である。

金付近をかけ足している陸上競技

であった。また、目標に向って毎

年の選手をしばしばみかけた。スポーツ好きの私なので、随分張切つているなど注目していた。それが

年一つ一つ積み重ねて、所期の目

的を達成するため、一年ごとに研究課題を設定し、これを継続発展の出発点は、三島校舎勤務に採用させることの大切さも先輩教授から教えられた。

こうして二十八年間は、また決して忘れることができない。忘れるどころか、最近では感謝の気持ちを強く抱くようになった。

「温故知新」（あるきをたずねて新しきを知る）。歴史を専攻す

る身として、私の好む言葉の一つである。三島校舎の将来を如何に具現化すべきかが、切実な問題と

# 三十一年の想い出



馬 場 康 夫



## 「クラス会」を開いて

中 塩 利 雄

現在の三島学園の充実を見る時  
三十年前終戦時の荒廃した国土か  
ら、新しい息吹と共に生まれた  
三島予科を想像する事は、困難か  
と思われますが、目をつむれば兵  
舎の跡に、まだ軍隊の名残の多く  
残された木造の校舎と、その中で  
思想や教育の混迷と、空腹をかか  
え向学の念に燃え、新しい各国の  
基礎を築くとて、世田ヶ谷予科よ  
り移つて来た、同級生四十名の顔  
が想い出されます。

当時、静岡県には旧制の静岡高  
等学校、浜松高等工業学校の二校  
しかなく、三島に大学の予科が出  
来ると言う地元の期待は、大きい  
ものがありました。現在の学園が  
地域の教育の中心として、地元の  
期待に答えている事は、大変意義  
のある事だと思います。開設当時一・  
二・三年生合せて約四百五十人の  
まいた種が、現在四万人を越える  
多くの実を、生み出した事を思う  
とき、感慨一入の感があります。

ここまで三島学園を育てられ  
た鈴木先生、亡くなられた秋葉先  
生を始め、諸先生諸先輩の御苦勞  
は、大変な事であったと思いつき返さ  
れます。

た鈴木先生、亡くなられた秋葉先  
生を始め、諸先生諸先輩の御苦勞  
は、大変な事であったと思いつき返さ  
れます。

一層の協力を借ります、学部開設  
の一日も早くからん事を。  
(昭21~23予科在学・豊橋鉄道取  
締役、豊鉄自動車整備常務)

は、大変な事であったと思いつき返さ  
れます。

されん事をお祈りしております。  
（昭和22~24予科在学・輔修セト  
商会営業副部長）

澤 直和 (21~23)  
中塩利雄 (22~24)  
田村栄一 (27~28)  
中島敏男 (30~31)  
宮下正俊 (39~40)

## 会報第六号編集にあ たつて

会報第六号が、やっと発行され  
ることになった。十一月末発行予  
定であったが、原稿が集まらず、  
さらにお願いした分は、国鉄スト  
でおくれてしまった。十二月中旬  
になって、やっと藤岡武雄先生、  
角田義廣幹事の協力で編集にはい  
った次第。こんなわけで、早々と  
寄稿された方には、申しわけなく  
思っております。紙面を借りてお  
詫び申し上げます。

続いて、第七号の編集準備には  
いりますので、皆様の一層のご協  
力をお願いします。投稿ご希望の  
方は、遠慮なく事務局宛に原稿を  
お送り下さい。  
(瀬川・記)

## 同窓会幹事追加委嘱 される

同窓会幹事に次の五氏が追加委  
嘱された。いずれも同期生の中心  
となつて同窓会発展のため活躍さ  
れている方々である。なお、任期  
は昭和五十一年十一月三日までで  
ある。





## パパとママは同窓生

土屋 貞明  
(旧姓 野木)

柿の葉が色付き始めると、そろそろ大学祭の頃だなと思いつ出されます。私たちの学生時代は闘争の真最中で、大学祭も思うようにできず、校外授業にあけくれ友人と語りあかし、泣いたり、笑つたり悩んだりの毎日でした。そんな中で知りあつた私達も、あつという間に二人の児の親になりました。我々

事だが、主れて間もない赤ちゃん

戦後の混乱も漸く収まり、社会秩序が平静を取り戻すや、燃える向学心を押えかねていた私は、かなり学令を越えていたものの、法曹への志を捨てがたく、運命の転機を求め、笈を負って三島学園を訪れたのであった。

当時の学園は、施設こそ今の如く充実していなかつたけれども、静かなたたずまいの中に質実剛健の氣風がただよい、若い情熱を燃焼させ、真理の深求に没頭するには、ふさわしい環境にあったと思う。

同窓の諸君との間には、年令差のみならず学力差もあったが、これを克服すべく努力した。そのころ、特待生として奨学金を与えたことは、とても有難いことであつた。

大學院で勉強して、司法試験にパスし、二年間の修習を経て、昭和三十四年四月裁判官となり、山口・熊本・東京・神戸の各裁判所で勤務し、現在は静岡地裁で民事裁判を担当している。

若き日の志を遂げ、法曹の道を歩むことになったが、専門に学んだ法律を存分に活用し、法以外の仕事は貴重な社会実習の機会ともなつたし、又学生生活をより有意義にしたことでも確かである。殊に学友会の主催する大学祭や北海道遊説などの行事は、苦労も多かつたけれども、それだけに終生忘れることのできない楽しい想い出となつていて。

三島を卒立ったのち、法学部や

(昭26・27教養部在学・静岡地裁判事)

## 生　き　る

條美智子  
(旧姓 武田)

（貞明氏、昭42・43機械科在学・土屋製作所自営）  
(レイ子夫人、昭43・44食料専攻  
在学・主婦)



## 法曹への道

田 実

れることは、とても有難いことで

あり、志の実現を堅く誓い、益々

勉強したのであった。

二年に進学し、年長の故か学友

会の会計監査という重責を負わさ

れ、多忙な毎日を送つたが、この

仕事は貴重な社会実習の機会ともなつたし、又学生生活をより有意義にしたことでも確かである。殊に

学友会の主催する大学祭や北海道

遊説などの行事は、苦労も多かつたけれども、それだけに終生忘れることのできない楽しい想い出となつていて。

三島を卒立ったのち、法学部や

(昭26・27教養部在学・静岡地裁

判事)

この度は、同窓会に出席し、学

恩深き諸先生の元気なお姿に接し

又、立派に成長された同窓の方々

にお逢いできたことは、非常に嬉

しいことであった。

## 近況



古園にて 懐古園にて

婦人  
主婦  
在学・主婦  
(昭34年)  
35栄養科  
36在学・主婦

レンガのある校舎を卒業して十五年、平凡な主婦として暮らしております。「平凡」という意味の内容を説明することで、近況報告にさせていただきます。娘一人。中学一年と小学四年生。受験戦争のさなか愚かな母となつて、上の娘を塾に通わせ、何とか念願の中学校に入れました。

運転歴五年。住まいが駅より二十分と辺鄙なものですから、わが家の運転手として役立っています。バス利用です。無事故をほこって

いますが、先日駐車違反でお灸をすえられました。

女の長電話。私のささやかな樂しみです。ことに、この夏、桜栄会の名簿作りのお手伝いを頼まれて、級友たちと久しぶりにおしゃべりの花をさかせました。

レジャー。亭主の安月給では思ふにまかせず、ここ何年か信州のか湖と高原の澄んだ空気をすくうのがせいぜいです。

お料理。テレビの料理番組はで見るだけ見るようにしています。

学生時代の知識をもとに自分なりの工夫をして、努力しているつもりです。いつの日かヨーロッパ食べ歩きができるればといふのが、私の夢です。

藤代恵美子  
(旧姓中西)

## 大學祭

### 牧野和代

大学祭!! 大学生活の思い出の一つ。夜おそくまで教室に、研究室に灯がともり、庭では、かなづちの音が鳴り響き、活気にあふれる学生の声。一年の時、揃いの赤色のワンピースでダンス。前庭に出て輪を作り踊っていると、一般の人たちも輪の中に入り、輪がどんどん大きく、二重に三重になっていく。大学祭を盛り上げる一つの効果。はずかしかったけど楽しかった。

二年の時、「英文展、T・ウイリアムズ」。資料集めに東京へ。文座、アメリカ文化センター等。マネキン人形を借りてきて、作品の一場面を再現。先生方の豊富な

三島学園創立三十周年と聞きましたが、卒業後七年の私には、信じられない気持ちと同時に、写真で見る当時の兵舎跡からは、今日の立派な姿は、とても想像出来ません。『学生時代』というと、イチヨウ並木・希望の森・思索の森・大學生祭・オール日大・友人等を思い出します。そして、忘れる事の出来ない、日大紛争・全学集会・大学デモ・

占拠・ロックアウト・アジ演説・アジビラ・学生総会・機動隊導入今考えるだけでも、頭が混乱しそうな気がします。そして当時の反省、苦い思い出と、次々に、脳裏をかき出します。しかし、講義では習得出来なかつた、貴重な経験をして以来、物の考え方を、様々な角度、立場から深く、緻密に考えるようになり、人との接し方等、非常に勉強になりました。

学園生活は、二年間と、短い間おくるつもりです。今頃は、イチヨウや校内の樹々が、紅葉して、さぞ美しいことでしょう。

私は、晚秋の三島学園が、一番好きです。  
(昭42・43商経科一部) 在学・食料品店自営)

## 紛争の頃

### 小早川隆義

でしたが、大変密度の濃い、一時期であった様に思います。学生時代の、苦悩と友情を基礎とし、糧として、これから的人生をおくるつもりです。



ない人もいるのに、と思ったこともあつたが、今は本当にやつてよかったと思う。だから、みんなに大学祭を大学生活の思い出、三島での思い出の一つにしてほしい。

大学祭を準備していたことが、昨日のよくなつかしく思い出される。その時は、何故こんなにまでしてやらなければならぬのか。何もし

## 初冬の自己批判

山口良児



過去を想うのは老化現象だなど

と口の悪い連中は私に言うけれども、たとえば箱根山に雪が降った

かと思うほどに白く大根が干され

た初冬の頃は、いかにも懐しい氣

がする。最近では山脈がまだ青い

だけで、あの白さを見るのもな

くなってきた三島の冬は淋しい。

私は所謂脱サラ組で、小さいな

がらも組織の中に居た経験から、

独立した後の孤独感や相談する相

手もない寂しさには参っていた。

それが、単なる感傷だと言つて

しまえばそれまでなのだけれど、

独立してひとりで商売を始める

いうことが実は精神的にも大変な

ことなのだというのは、後になっ

てわかつたことであった。

それから数年を経てもなお、果

たして本当に自分はこの仕事で一

生を終えて悔がないかと逡巡し、

初冬の箱根に大根が白く干されて

いないことを淋しがり、いやまあ

何と進歩しない奴だと自分を蔑む

のである。

三十にして立ったのだから、せ

## 学生時代、そして今

宮下俊俊



一昔前（十年前）の学生生活を

時々思い起します。再提出のあつ

た設計製図、出欠の返事を廊下で

した事もある一般教養、まじめに

（？）聴いた都市計画や建築法

規、……。これでなんとか無事に

卒業、色々ありました。講義には

あまり熱心ではなかった私でした

が、講義時間内及び時間外でのM

教授の教えは、物の考え方、人と

の接し方、その他対話時の教

す。

こんな私も家へ帰ると、二人の息子の入浴、休日には、なんとかやっと新築した家の掃除、庭の跡片づけ、草取り、etc……と、

卒業して早や十年の歳月を迎えようとしています。「光陰矢の如し。」と言われている通り早いもので、学生時代は時々講義をサボリ、社会勉強に精を出していった

今は、卒業から現在までの、建築行政に携わって来ている私の、確実になって来たように思われます。

学生生活での私は、少なくなりつたある対話の中での教え、これが

持つて、仕事に対することがで

きます。まさに、赤面の思いをしては仕事への意欲を新たにした二年目を終えちよびり、人間不信が昂じて、

總てを投げ出したくなつた三年目を過ぎて、相變らず頭きがちではあります。しかし、或程度の精神的余裕

を持つて、仕事に対することがで

きます。まさに、赤面の思いをしては仕事への意欲を新たにした二年目を終えちよびり、人間不信が昂じて、

總てを投げ出したくなつた三年目を過ぎて、相變らず頭きがちではあります。

こんな私も家へ帰ると、二人の息子の入浴、休日には、なんとかやっと新築した家の掃除、庭の跡片づけ、草取り、etc……と、

生活のリズムを把握し得、今後に展望を持てるまでになつた今の私は、可能なものなら一日を三十時間欲しいと思う程に、多忙な中に充実した毎日を送つております。

（昭45・46国文專攻在学・日本大

雑用の多い毎日です。又平日の朝は朝で、「パパシユンチャンも行く。」とダダをこね、一緒に行きたがる長男を、なだめすかしての

出勤、こんな親子四人での、平凡な日々を送つてゐる私です。（昭39・40建築科在学・静岡県富士土木事務所住宅建設課）

## ひとりあるき

山田節子



ところが、そんな私を横目に見

て、家族は「もう片付いても良い頃なのに。」と肩を震わせ、「後悔するよ。」と隣れむかのように言

うのです。それというのも、私に二十四歳の女性としての自覚が稀薄なものを心配しての事なのでしょうが、こればかりはいろいろと個人差もあることですので、私の場合は特別仕立の晩熟型ということ

で、猶予してもらう心算です。後悔する時が来たなら身も世も無く後悔しようと思ひます。尤、悔の無い人生など有り得ないとも言いますけれど……。

それはさておき、これから私に何にも増して大切なのは、この

年に成つても未だ確立できない自分自身の、「内なるもの」に目を

向けて行く事のようです。掛け値無しの弱虫で、例えば明日にでも突然大きな困難に遭遇したとした

ら、到底正面きつて対峙してゆく自信など無いこの私が、ほんの少しでも強い意志を持つて行こうになつて、より良く生きて行くための

なによりの基として。